

美和ダム再開発湖内堆砂対策施設モニタリング委員会（第1回）
指摘事項と検討方針（案）

回	分類	指摘事項	検討方針（案）
第1回 (1)	運用計画	湖内堆砂対策施設の運用計画を検討するにあたり、ストックヤードは洪水の立ち上がり時に運用開始することになり、操作運用上、最も忙しいタイミングである。管理体制を考慮し、できるだけ簡単な操作とする必要がある。	湖内堆砂対策施設のストックヤードによる排砂は、ゲート操作による調節が必要であり、出水時における排砂量や濁水状況をリアルタイムで把握することを含めた試験運用計画を立案・実施し、実運用段階における自動化（省力化）を目指して検討する。
		湖内堆積土砂の浚渫にあたり、大規模出水後においてストックヤードに投入できない浚渫土量をどのように処理するのか、複数年をかけて分割投入するなどの案を検討すべきである。	湖内堆砂対策施設のストックヤードを最大限活用する運用計画を検討していく。具体的には、毎年3月末までにストックヤードに3万 m ³ の土砂を貯めることを基本とし、当年出水にてできるだけ排砂する運用方法を試験運用により確立する。
	モニタリング調査計画	湖内堆砂対策施設の運用における着眼点について、ストックヤードから排出された土砂が横越流堰からダム湖に流入する状況を確認する必要がある。	土砂バイパストンネル呑口の横越流堰からダム湖への流入状況は、CCTVカメラにて監視するとともに、流入量算定及び土砂量推定方法について試験運用にて確認する。
		湖内堆砂対策施設の運用における着眼点について、バイパストンネルに流入する土砂の粒径をモニタリングする必要がある。	湖内堆砂対策運用時におけるモニタリング調査計画により、土砂バイパスに流入する土砂の粒径を把握する。
		今後のモニタリング調査の実施にあたり、環境モニタリングは、ストックヤードの試験運用後だけでなく、運用前の調査も重要である。また季節変動、ダム以外の影響も考慮する必要がある。調査は、過去の調査を踏まえて適切に設定すること。	湖内堆砂対策施設運用による下流影響を検討する調査項目を整理し、必要な調査項目については、試験運用前から実施する。その際、湖内堆砂対策施設以外の影響については、既存の調査結果も踏まえて検討する。

回	分類	指摘事項	検討方針（案）
第1回 (2)	環境影響予測	調査及びその後の予測検討について、出水時・平常時の濁りの特性を整理したうえで、魚類など生物に及ぼす影響をあらかじめ想定し、検討すること。	出水時・平常時の濁りの現状を整理し、運用時における出水規模別の水環境の変化予測を行い、魚類等への影響を想定する。魚類等の生物予測の手法について検討する。